病　院　案　内

市立室蘭総合病院
Muroran City General Hospital

基本理念「おもいやりの心がかよう病院」

1. 信頼される医療を持続的に提供します

- 市民の健康と暮らしを支え、地域の理解と信頼とに育まれた病院としてあり続け、安心と満足とを与える患者中心の医療を提供します。

2. 自治体病院としての役割と責任を担います

- 地域医療と災害・救急医療を担う自治体中核病院としての役割を自覚し、周辺医療機関との連携と協力のもとに、高度な医療と市民のニーズに対応した医療を実践でき る病院づくりを展開させます。

3. 経営の健全化と効率化に努めます

- 市民の誇れる・活力のある病院として発展し続けるため、職員一人一人が経営に参画し、経営基盤の強化と効率的な運用に取り組み、経営の健全化を担います。

ご挨拶

病院事業管理者　新　井　　一

このたびはパンフレットをご覧いただきありがとうございます。

このパンフレットは広報委員会が中心となって作成したものです。多職種の職員で構成する広報委員会で、色々なアイディアを出し合って作られたものです。ページをめくっていただくとわかりますが、病院理念の「おもいやりの心がかよう病院」を感じるものや、室蘭市の名物などもページごとに表されております。

現在、医療を取り巻く環境は非常に厳しいですが、その中で感じることは、今までは各病院個々の「力」による医療から、地域全体（二次医療圏）の「力」、地域力に変わってきているように思います。今回の新型コロナウイルス感染症拡大での対応でそれがはっきりと出たように思います。市立室蘭総合病院もこの地域の中核病院として地域に貢献しながら、公立病院としての使命もしっかりと果たしていきます。

今後も病院職員一丸となって「思いやりの心がかよう病院」の理念を実践し、地域住民の皆様から信頼され愛される病院づくりに精進してまいります。

院長　髙　橋　典　之

市立室蘭総合病院の歴史は、明治37年刊行の「百年のあゆみ」では、明治５年（1872年）官立室蘭病院の設立に置かれている、となっています。しかし、私の出身大学の大先輩で当院長であられた安斎哲郎先生の『院長室の窓』を拝見すると、当院の歴史は安政２年（1855年）の絵鞆御用所（のちの室蘭御用所）に始まり、道内でも非常に長い歴史を持った病院と言えるとの事です。

われわれの置かれた使命は、この長い歴史の中で、日常診療はもちろん突然の災害についても、医療者の倫理を胸に発揮されてきました。医療者の倫理は、“物を作って黒字を出す”と言う単純な事ではありません。

長い歴史の中で何度も当院の医療者の倫理が試されてきました。最近では､2018年９月６日の全道ブラック・アウトの時は、当院が先頭に立って、他院の人工呼吸器患者さんや人工透析患者さんを大量に受け入れた事は、常に医療者の倫理を模索してきた当院無くしては解決不可能と思える事態であったと考えます。われわれは、これらの経験を大切に再認識・反省し、更なる医療倫理の構築へと向かっていく所存です。

病院概要･沿革

開設	明治５年９月
診療科目	【22診療科】 内科（総合診療科）、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、循環器内科、神経内科、外科・消化器外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、精神科、放射線科、麻酔科、産婦人科、小児科、リハビリテーション科、形成外科 ※令和５年１月１日現在
許可病床数	527床（一般379床、結核24床、精神120床、感染症４床） ※令和５年１月１日現在
職員数	731名（医師48名、看護師等371名、その他312名） ※令和５年１月１日現在
敷地面積	38,296㎡
建築面積	11,083.22㎡
延床面積	36,919.60㎡

主な沿革	明治５年９月	診療所を元室蘭に開所
	明治31年11月	常盤町に新病院を建築
	大正７年２月	区制施行とともに「区立室蘭病院」と改称
	大正11年８月	市制施行により「市立室蘭病院」と改称
	昭和26年２月	火災により院舎を消失
	昭和33年６月	「市立室蘭総合病院」と改称
	昭和39年10月	救急病院に指定
	平成９年２月	山手町に新「市立室蘭総合病院」を新築
	平成９年６月	新「市立室蘭総合病院」開院
	平成11年４月	感染症病床の指定を受ける
	平成17年２月	集中治療室（ICU）を開設
	平成18年12月	院内案内ボランティアを導入
	平成20年２月	「災害拠点病院」に指定
	平成20年４月	地方公営企業法全部適用
	平成23年２月	「市立室蘭みなと診療所」を開設
	平成23年12月	リハビリテーションセンターを開設
	平成24年４月	ハイケアユニット（HCU）を開設
	平成24年10月	病院機能評価（Ver6.0）認定を受ける
	平成25年４月	北海道がん診療連携指定病院に指定 大学連携顕微鏡手術トレーニングセンターを開設
	平成26年５月	伊達赤十字病院・苫小牧市立病院・八雲総合病院と災害時における相互支援協定を締結
	平成27年５月	地域包括ケア病棟を開設
	平成28年４月	医療連携・患者支援推進センター設置
	平成30年２月	消化器病センター開設

救急・災害に　強い総合病院

当院は、西胆振地域における救急医療・災害医療の中心的役割を担っています。脳神経外科を含む外科系診療科が充実していることから、交通事故などが原因の大きな外傷の方も多く搬入され、麻酔科・脳神経外科・整形外科からなるチームが処置を行います。ドクターカー、ナースカーを出動させ救急車内での処置を早める独自プランを実現させるなど、より安全で確実な救命救急医療を目指しています。

また、2008年に災害拠点病院として指定を受け、地震・津波・台風・噴火等の災害発生時において、救命医療などの高度な医療の提供を行い、被災患者さんの受け入れや、医薬品・医療材料などの供給が円滑にできるよう、独自マニュアルの作成や災害訓練の実施により、日々緊急時に備えています。

市立室蘭総合病院ＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）について

- DMATは、被災地へ迅速に駆けつけて救急医療を行うため、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームです。1995年の阪神・淡路大震災を教訓として整備されてきました。当院では2009年に職員５名が日本DMAT隊員となり、現在は医師３名(うち１名は統括DMAT登録者)・看護師５名・業務調整員２名が活動しています。
- 当院は、2008年に災害拠点病院の指定を受けて以来、全職員の知識向上と対応力を養うため、大規模な訓練を実施しており、DMATは、災害訓練の企画・運営においても中心的な役割を果たしています。
- どのような災害が起きようとも、最後の砦として地域を守る一翼を、今後も担っていきます。

北海道胆振東部地震における活動

- 2018年９月６日に発生した北海道胆振東部地震において、厚生労働省からの要請を受け、市立室蘭総合病院DMATが出動し、９月９日まで活動しました。
- 発災当日から苫小牧市立病院に設置された東胆振活動拠点本部で、当院医師が本部長を務め、西胆振及び東胆振の医療供給体制の調整を行いました。
- 各医療機関や避難所への定期確認と並行して、苫小牧市内の医療機関における患者の室蘭への搬送要請を行うなど多くの役割を果たしました。

東日本大震災における活動

- 東日本大震災発生に伴い、2011年３月11日から３月15日まで、市立室蘭総合病院 DMAT が航空自衛隊千歳基地に出動しました。
- 北海道の各 DMAT チームと協力し、広域搬送拠点臨時医療施設（SCU=StagingCareUnit）の運営にあたりました。

最新技術の提供から心のケアまでサポートするがん治療

当院は、2013年に北海道がん診療連携指定病院として認定され、2018年に消化器病センターを設置しています。日本がん治療認定医機構のがん治療認定医が複数在籍し、チーム医療で患者さんの状態や生活に寄り添った治療と支援を提供しています。

また、2008年に開設した外来化学療法室では、普段の生活を送りながら抗がん薬治療を受けることができるほか、院内外の患者さんやご家族からの相談に応じる「がん相談支援センター」、がんサロン「ひまわりの会」開催などを通して、安心・安全で適切ながん治療を提供できる体制を整えています。

チームで実現する質の高いトータル医療

当院では、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど様々な職種がチームとなり、専門職にしか見えない情報を共有して、患者さんの状態に合わせた治療やケアを行っています。チーム医療を充実させることで、患者さんのためのよりよい診療を行うことができます。

「緩和ケアチーム（PCT）」「栄養サポートチーム（NST）」「感染対策チーム（ICT）」「抗菌薬適正使用支援チーム（AST）」「褥瘡チーム（PUT）」「摂食嚥下支援チーム（SST）」など、チームの分野と内容を充実させ、患者さんへのより良い医療の提供のため日々改善していきます。

患者さんの社会復帰に取り組む精神科

当院は、精神病棟を持つ総合病院の強みをいかし、精神疾患と一緒に身体疾患などほかの合併症も合わせて診察できる医療機関として、多くの患者さんを受け入れています。

治療は主に薬物治療と精神療法が中心となり、医師による診察だけではなく、看護師、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士がチームとなって、精神科デイケア、作業療法、訪問看護などを行っています。リハビリテーションの充実を図り、患者さんにとって無理のない社会復帰の促進に力を入れています。

地域に寄り添う病院として

地域に寄り添う病院として、当院を地域の住民の皆さんに身近に感じていただけるよう、職員が知恵を出し合い、様々なイベントを開催しています。

「病院まつり」では、普段経験することのできない内視鏡や腹腔鏡などの体験ブース、血管年齢の測定などのほか、子供たちが楽しめるプチ縁日を開催しています。

また、市民公開講座として定期的に開催している「くじらん健康教室」では、住民の皆さんが健やかに毎日を過ごしていただけるよう、様々なテーマについて、職員が分かりやすく情報提供しています。

医療連携・患者支援推進センター「ななかまど」

医療連携・患者支援推進センター「ななかまど」では、患者さんやご家族へ充実した医療・福祉サービスを提供できるよう相談支援の体制と整えています。

看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員が協力し当院の外来、入院患者さんの相談、退院支援、地域の医療・介護施設との連携を行い患者さんへの適切な対応、支援を行っています。

地域医療介護情報ネットワーク「スワンネット北海道」

当院は、地域の医療機関、介護施設、ケアマネジャー等との連携を図るため、地域医療介護情報ネットワークシステム「スワンネット」に参加しています。

地域連携室

地域連携室には、地域の医療機関に通院中の患者さんが、必要時スムーズに当院へ受診できるようにお手伝いをする「地域連携」部門と、通院中・入院中の様々な困りごとについて相談を受ける「医療福祉相談」部門を設けています。

地域連携

1．患者さん中心の医療を実践するために、地域医療機関の先生方との医療連携を推進します。
2．それぞれの医療機関の機能と役割を分化し、お互いの強みを生かし、弱みを補完して、地域全体で医療の質の向上、効率化を図っていきます。
3．地域医療連携をさらに効率的に機能させるため、患者さんには日ごろの健康管理から、病気の早期発見、初期治療、慢性疾患の治療、経過観察などを行う、「かかりつけ医」制度を推進しています。

医療福祉相談

医療福祉相談では、専門のソーシャルワーカーが、患者さんやご家族からの入院や外来通院に伴う生活の悩みや困りごとについて相談を受け、問題解決に向けてのサポートを行っています。

診療案内・フロアマップ・アクセスマップ

診療案内

受付時間	【午前】 ８時30分～11時30分（診療科により異なります。） 【午後】12時00分～15時00分（午後に診療を行っている科のみ）
診療予定表	最新の情報は下記ホームページにてご確認ください。 https://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/gairai/index.html
休診日	土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～１月３日）

診療予定表はこちら

フロアマップ

当院は、東西棟地上６階、南棟地上４階の構造となっています。
入院病棟案内及び外来フロア案内の最新情報は、ホームページに掲載しておりますので、下記よりご覧ください。

入院病棟案内

外来フロア案内

病院動画のご紹介

当院では「市立室蘭総合病院公式チャンネル」を開設しています。
当院の紹介動画のほか、災害対応力向上を目的とした教材動画、当院専門職が分かりやすく紹介・解説する健康・栄養・運動などに関する動画などの様々なコンテンツを、ぜひご覧ください。

URL https://www.youtube.com/@MuroranCityGeneralHospital/videos

市立室蘭総合病院
YouTube
公式チャンネル

アクセスマップ

ＪＲ	室蘭駅から徒歩10分
市内バス	道南バス　市立病院前または市役所前
都市間バス	道南バス・北海道中央バス 降車時：市役所北　乗車時：室蘭駅前

市立室蘭総合病院
Muroran City General Hospital

〒051-0012 北海道室蘭市山手町３丁目８-１　電話：0143-25-3111
https://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/